

T&Tオルファクトメーター

(嗅覚測定用基準臭)

● 効能又は効果

基準嗅覚検査 (D253-1) : 嗅覚感度の判定に用います

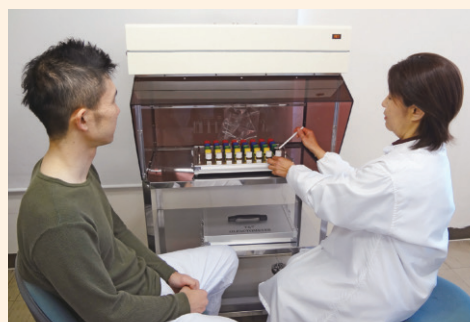
● 特長

1. **バラエティに富んだ5種類**のニオイで構成されます。
(花のニオイ、あまいニオイ、腐敗臭、果実臭、糞臭など)
2. 各ニオイが**7~8段階の濃度**で構成されているため、域値判定が可能です。
3. 主に、耳鼻咽喉科領域で基準嗅力検査として**嗅覚障害の程度や治療効果の判定**に用いられております。

〈検査キット一式〉



〈検査風景〉



● 製品内容

スターターキット : T&Tオルファクトメーター (統一商品コード: 108161009)

セット内容		
① 専用格納容器		
② 嗅覚測定用基準臭 (40本各5mL)	:	108162006
③ ニオイ紙 (500本入)	:	108963009
④ オルファクトグラム 1冊	:	108964006

②、③、④は
消耗品のため、
別途単品でも
購入いただけます。

● 別売品

脱臭装置SD-1 (代理店: 永島医科器械株式会社) 検査時、周囲に漏れるニオイを軽減します。

製造販売元 **① 第一薬品産業株式会社**

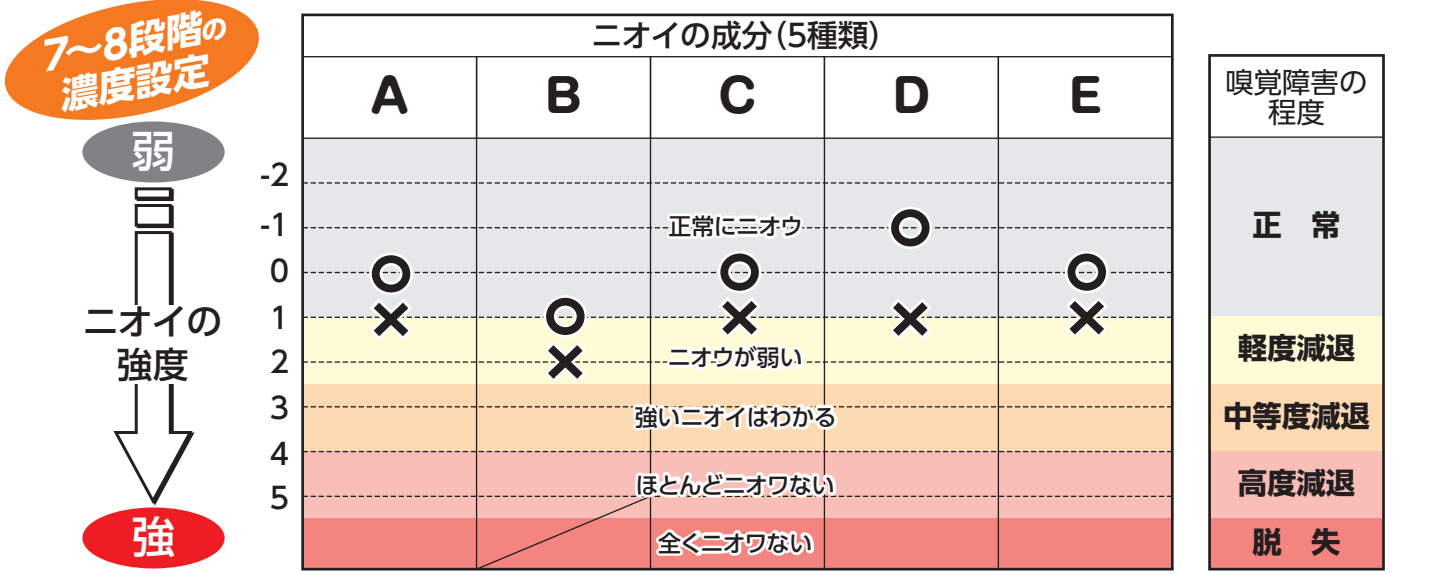
T&T OLFACTOMETER

● 検査手順

1. 検査者はニオイ紙の一端を持ち、他端を1cmほど基準臭に浸してから、被検者に渡す。
被検者は基準臭のついたニオイ紙の先端を鼻先約1cmに近づけてニオイを嗅ぐ。
2. ニオイを嗅ぐ順序はAから始めてB、C、D、Eの順序にする。(→2のA～E、ついで→1のA～E、以下同様)
3. どこで初めてニオイを感じるかを被検者に言わせて、その基準臭の番号をオルファクトグラムに記載する。
これが検知域値となる。
4. 次に、更に強いニオイを嗅がせて、それが何のニオイか、又はどんな感じのニオイか判定できるまで、一段一段強くしていく。被検者のニオイの表現が定められた表現(またはそれに近い表現)である場合にその基準臭の番号をオルファクトグラムに記載する。これが認知域値となる。

検査結果記入例 (※付属のオルファクトグラムを使用)

○ : ニオイを感じたところ (検知域値)
 × : どんなニオイか、わかったところ (認知域値)



● 注意事項

1. ニオイは必ず濃度の薄いものから順次濃度の濃いものへと嗅がせること。
2. 一度、基準臭に浸したニオイ紙は再使用しないこと。
3. 検査室の環境を下記のとおり保つこと。
 - 室内自体にニオイが無いこと。
 - 室温は20℃～25℃とする。
 - 部屋の換気を充分に行うこと。
4. ニオイ紙の使い方、捨て方
一度基準臭に浸したニオイ紙は再使用しないこと。検査者は被検者がニオイ紙を1本嗅ぐごとに直ちに捨てること。使い捨てたニオイ紙は検査室の空気を汚すので、ポリ袋に入れ、袋の口を縛って、フタのある汚物缶に捨ててください。

● 関連文献

☆HPから資料を閲覧できます。ご利用ください。

T&Tオルファクトメーターは旧文部省、厚生省の援助を受け、群馬大学・高木貞敬元教授、金沢大学・豊田文一元教授らの研究班によって開発されたわが国唯一の基準嗅覚検査です。高砂香料工業株式会社より承継し、弊社で製造・販売しております。

引用文献

1) 浅賀英世 現代臨床機能検査嗅覚検査pp.527-528 (1979)	9) 豊田文一・北村武・高木貞敬編著 嗅覚障害-その測定と治療(1978)
2) 浅賀英世 耳鼻咽喉科診療Q&A嗅覚検査法pp.556-561(1980)	10) 浅賀英世 日本医事新報No.3159pp.43-47(1984)
3) 塩川久子 日本耳鼻咽喉科学会誌79,12別刷(1975)	11) 浅賀英世 日本味と匂学会誌pp.35-38(1994)
4) 梅田良三・浅賀英世 日本耳鼻咽喉科学会研修資料pp.34-38(1976)	12) 三輪高喜 日本味と匂学会誌Vol.10 No.1 pp.59-66(2003)
5) 真田聖子他 日本鼻副鼻腔学会誌pp.48-49(1974)	13) 深澤啓二郎 日本味と匂学会誌Vol.10 No.1 pp.67-72(2003)
6) 真田聖子他 日本鼻副鼻腔学会誌pp.79-80(1975)	14) 内田 淳 日鼻誌45(1) pp.75-78(2006)
7) 浅賀英世他 日本鼻副鼻腔学会誌pp.80-81(1975)	15) 三輪高喜 嗅覚検査82(5) pp.155-160(2010)
8) 福島淑子他 日本鼻副鼻腔学会誌p.84(1975)	16) 三輪高喜 嗅覚検査の現状と今後の展望54(2) pp.71-79(2011)